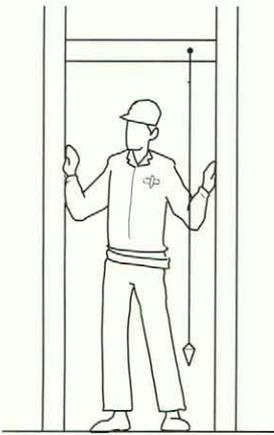


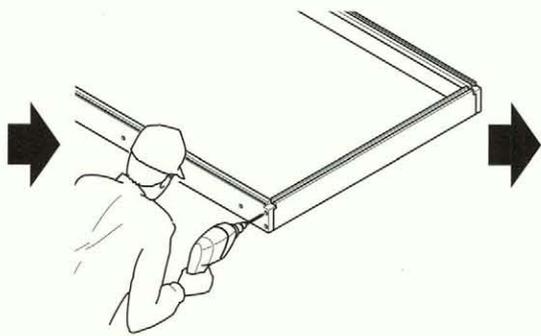
クローゼットドア 折れ戸 ピボットタイプ①

施工フロー

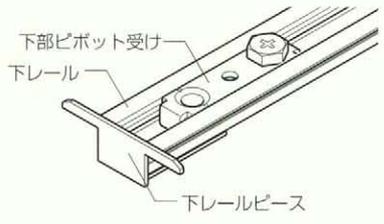
1 水準器・下げ振り等で開口部の水平・垂直を確認してください。



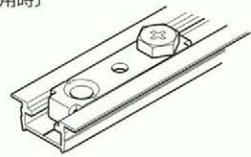
2 埋込下レールを使用する場合は、縦枠下部をカットします。上枠・縦枠を組みます。薄下枠を使用する場合は、薄下枠を組みます。



3 [埋込下レール使用時]
下レールの両端部に下部ピボット受けと下レールピースを取付けます。



[薄下枠使用時]



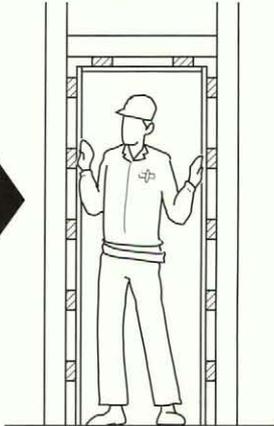
4 [埋込下レール使用時]
床をはり、下レールを仮置きします。



5 [埋込下レール使用時]
下レールピース端部を縦枠の段差にあて、縦枠の位置を決めます。



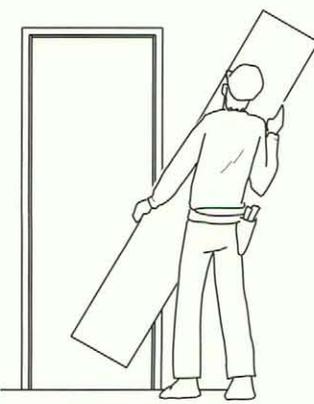
6 枠と柱・間柱・まぐさとの間に隙間をつくりかい木を入れます。



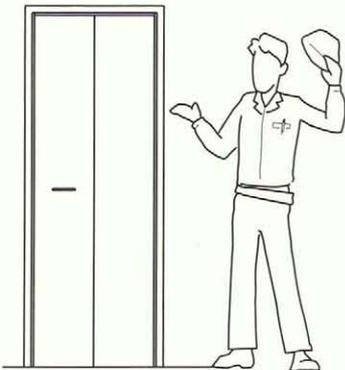
7 三方枠をねじと木工用ボンドで固定し、薄下枠を釘と木工用ボンドで固定します。下レールをねじで固定します。



8 ケーシング取付け後、本体を枠に吊込みます。

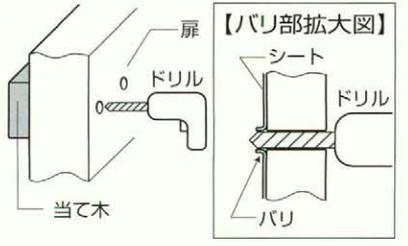


9 扉の片側に貫通穴をあけ、把手をつけます。最後に建付け調整を行ってください。



把手取付け時のお願い

● 把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため扉表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



お願い

施工時の建具養生等、粘着テープ類の直貼りはお止め下さいますようお願い申し上げます。
建具類の表面シートはトップコートとよばれる表面強化により保護されています。ただし、粘着力の強いテープ(ガムテープ・養生テープなど)を長い時間、建具表面などに直貼りしますと、そのテープをはがす際、表面シートを傷めたり、またテープそのものの粘着剤が表面に付着したまま残ることがあります。

商品の色は、印刷の特性上、実物とは多少異なる場合がございますのでご了承ください。
掲載価格には、消費税、ガラス代(ガラス組込商品を除く)、組立代、取付費、運賃等は含まれておりません。

【ご注意】

折れ戸ピボットタイプは、フリータイプに変更できません。

■施工される方へのお願い

●本説明書で使われているマークには以下のような意味があります。

▲注意 …取扱いを誤った場合に、使用者が中・軽傷を負う危険および物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

●この取付説明書は、必ず施工される方にお渡しください。なお、施工後は、施主様へ必ずお渡しください。

▲注意

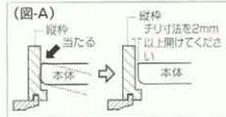
●扉を閉める際は、扉の折れ曲がり部分に手をはさまないようにしてください。

●扉へのもたれ掛かりは扉がはずれ、転倒しけがの原因になりますので、もたれ掛からないようにしてください。

●扉本体を取付けた後、本体を開閉して下記項目を点検してください。該当する項目がある場合、必ず建付け調整をしてください。本体が枠から外れ易くなり、ケガや故障の原因となります。

- 本体の上下軸ピボットの軸がピボット受けに納まっているか？
- 本体が極端に斜めに取付けていないか？ (図-C)
- 本体の吊元側が縦枠に当たっていないか？ (図-A)
- 本体の戸先側同士が当たっていないか？ (図-B)
- ピボット受けの位置調整ナットがしっかり締まっているか？
- 本体が極端に斜めに取付けていないか？ (図-C)
- 開閉がスムーズに行えるか？開閉が重くないか？
- 枠と本体とのねじれはないか？
- 開閉時に異常な音が発生していないか？

●扉の把手にぶらさかたり重量をかけないでください。扉が転倒してケガをしたり、把手が破損するおそれがあります。



(図-C)



■施工上のお願い

- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きのドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や垂下がり・ゆがみ等の原因となります。
- 枠を取付ける際、水準器・下げ巻り等で水平・垂直を確認してください。
- 造作材・建具枠を取付ける時には必ず木工用ボンド(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に木工用ボンドを塗布してください。
- 本製品は下荷重方式のため、床面で重量を受けますので、扉重量に耐える床面仕上げをしてください。

間口	扉重量
3尺間口	20kg
4.5尺間口	40kg
6尺間口	50kg

●納品時に各部材・部品を点検してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズ等による交換は出来ません。)

●運搬・加工の際は、傷付けないよう丁寧に取扱ってください。また水・直射日光の当たる場所に、開閉状態で置かないでください。反り・ねじれの原因になります。

●造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理してから施工してください。

●造作材・建具枠と柱・間柱・まくさとの間には必ず隙間をつくり、かい木を入れてください。かい木は合板等の乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に必ず防水処理をしてください。

●枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。

■部品・部材の明細

■部材の明細

折れ戸本体	折れ戸用枠	折れ戸用下枠
●クローゼット本体	●上枠 ●上レール ●縦枠(2本)	●下レール ●下枠 ●または ●埋込下レール
		ケーシングセット(ケーシングタイプのみ)
		ケーシング材(上用)
		ケーシング材(取用)

■本体用部品セット

部品名称	把手	把手取付けねじ トラス小ねじ M4×35	軸ピボット(上)	軸ピボット(下)	ガイドピボット(上)・(下)	調整スパナ
呼称						
全機種	1	2	1	1	2	1

■枠用部品セット

部品名称	ねじセット	下部ピボット受け	穴埋め シールシート
呼称			
ノンケーシング	0720 0723 0820 0823 (ねじセットA)	1	1
ケーシング	1220 1223 1320 1323 (ねじセットB)	2	1
	1620 1623 1820 1823 (ねじセットC)	2	1
ケーシングセット	0720 0723 0820 0823 (ねじセットD)	1	—
	1220 1223 1320 1323 (ねじセットE)	2	—
ケーシングセット	1620 1623 1820 1823 (ねじセットF)	2	—

■ノンケーシング枠用ねじセット

部品名称	枠組立用 DNビス (皿木ねじ) φ3.8×65	上・縦枠取付用 皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装
ねじセットA (W07,W08用)	4	14
ねじセットB (W12,W13用)	4	16
ねじセットC (W16,W18用)	4	17

■ケーシング枠用部品セット

部品名称	枠組立用 DNビス (皿木ねじ) φ3.8×65	縦枠取付用 皿タッピンねじ φ4×50 頭部シート色塗装	上枠固定用 皿タッピンねじ φ4×50
ねじセットD (W07,W08用)	4	12	2
ねじセットE (W12,W13用)	4	12	4
ねじセットF (W16,W18用)	4	12	5

■下枠用部品セット

部品名称	枠組立用 DNビス (皿木ねじ) φ3.8×65	レール固定用 皿タッピンねじ φ3.5×20	縦枠下部 ピース
ねじセットG (薄下枠用)	4	2	—
ねじセットH (埋込下枠用)	—	2	2

**商品特長
商品一覧**

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼット
ドア
- 戸楔

■規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼット
ドア
- 戸楔
- 有償部品

**■特注
対応品**

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

クローゼットドア 折れ戸 ピボットタイプ②

商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖

有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

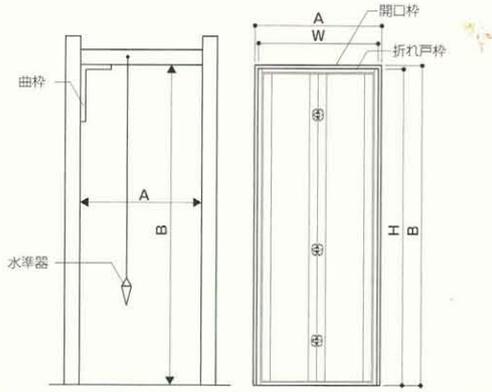
用語解説
索引

■開口部の確認

※開口部の水平・垂直を確認してください。
※開口部寸法が右記寸法になっていることを確認してください。

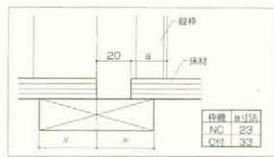
開口寸法A 製品寸法W+10mm
開口寸法B 製品寸法H+5mm

●開口寸法

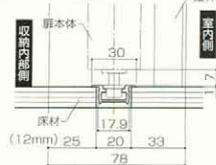


■床張り位置【埋込下レールを使用する場合】

※床材は、柱芯（建具芯）より引込み側に20mmあけて張ってください。柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりの寸法内側に入った所に20mmあけて張ってください。



【ケーシング付きタイプ】



【ノンケーシングタイプ】

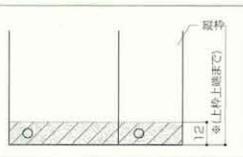


■取付詳細

1 枠の組立て

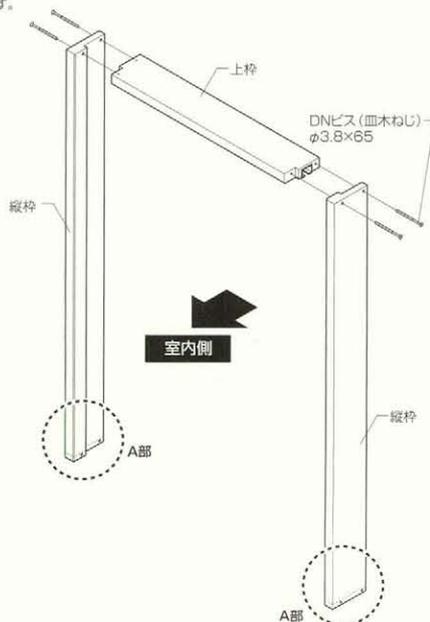
■A部詳細図

※この寸法は床上面(F.L.)から上枠上端までの寸法を、
H23=2306
H20=2023
にする時の寸法値です。現場の納まりにより変更してください。



【埋込下レールを使用する場合】

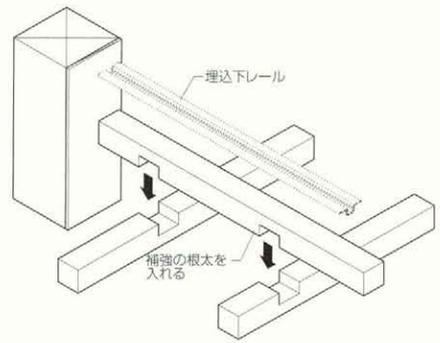
- 縦枠下部(A部詳細図中斜線部)を切断してください。
- 下図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。



■床の張り方

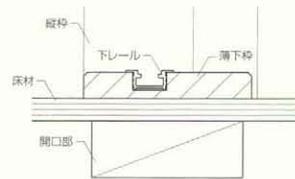
■下枠下地の確認

- 枠材は捨て張り合板の上に施工するか、根太張り工法の場合は下図のように根太を入れて補強してから施工してください。下枠の破損や扉開閉不具合の原因となります。



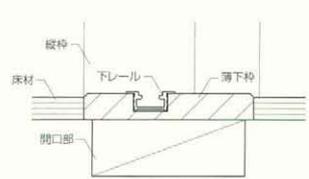
【薄下枠を使用する場合(床載せ納まり)】

- 床材を張ってから枠を取付けてください。



【床後張り(枠先付けの場合)】

- 枠取付け後、縦枠・薄下枠にそって床材を張ってください。

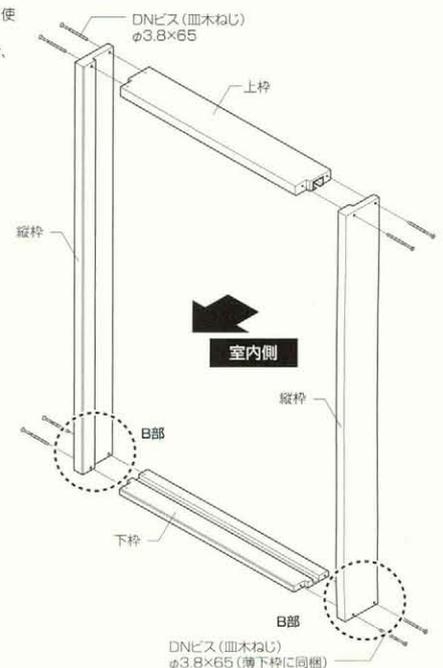


【お願い】

床材は必ず上図の位置に張込んでください。床材の開口寸法が大きすぎたり狭すぎると、床の隙間が見えたり埋込下レールが入りにくい原因となります。

【薄下枠を使用する場合】

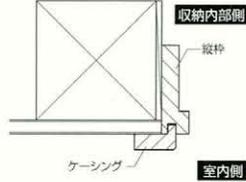
- ※縦枠下部(B部)は切断せずに使用してください。
- 下図のように各部材を組合わせ、同梱のねじで固定します。



【ご注意】
折れ戸ピボットタイプは、フリータイプに変更できません。

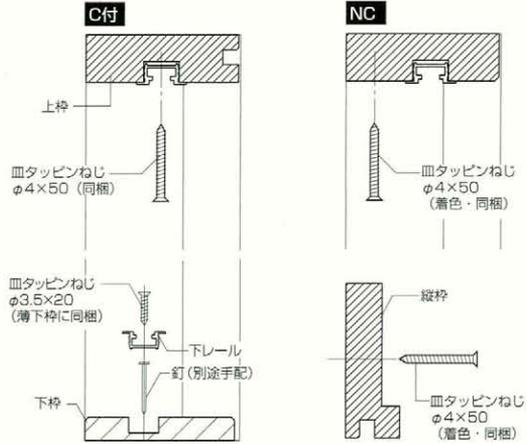
2 枠の取付け

●組立てた枠を開口部に入れます。ここでケーシングタイプの場合は、縦枠にケーシングを差し込みます。枠の固定位置を確認します。
※ケーシングの足が短い場合、後で調整することができません。このため、位置出しは確実に行ってください。
※ケーシングは、位置出しのためですから、固定はしないでください。



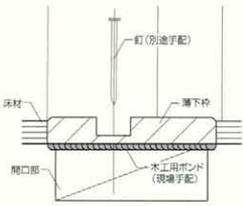
【薄下枠を使用する場合】

●上枠・下枠・縦枠を躯体開口部に固定します。その際、レールも合わせて固定します。



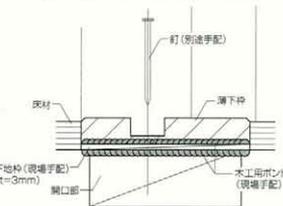
●床材厚さ12mm

※必ず薄下枠に木工用ボンド(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



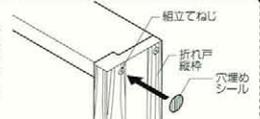
●床材厚さ15mm

※必ず薄下枠と下地材に木工用ボンド(現場手配)を付け、躯体に固定してください。



【穴埋めシールの使用方法】

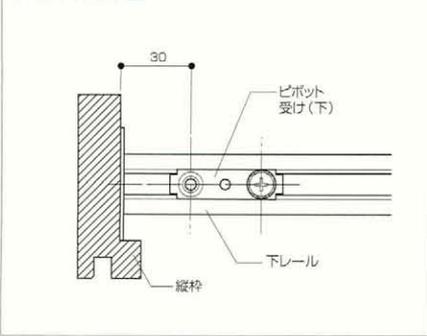
ノンケーシング枠において、折れ戸縦枠が、仕上げボード面よりも12mm以上出る場合に使用してください。右図のように、穴埋めシールの木目方向を合わせて、組立てねじ頭部に張ってください。



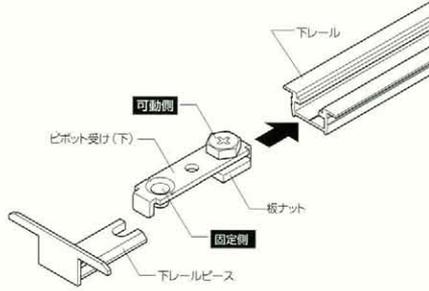
【埋込下レールを使用する場合】

①下レールにピボット受けを差込み、下レールベースを差し入れます。
※ピボット受けのナットが可動側へ向くようにしてください。(図-1)
ピボット受け(下)を下図の位置に合わせ、ボルトを+のドライバーで締め、固定してください。(扉の吊込み後、ボルトは再度ゆるめ、建付け調整を行います。)

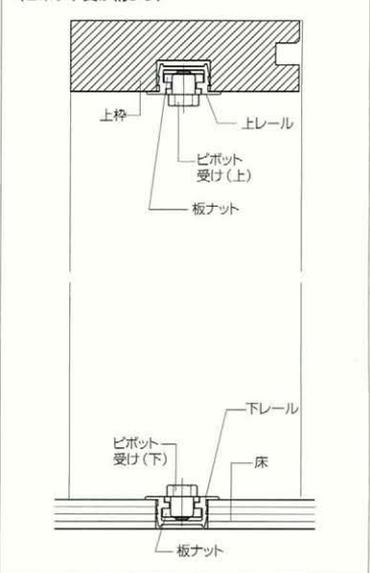
●ピボット固定位置



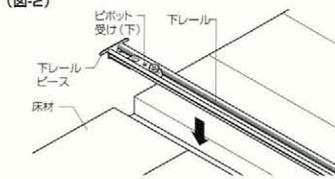
(図-1)



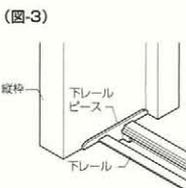
〈ピボット受け納まり〉



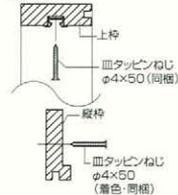
②下レールベースとピボット受け(下)が取付けた状態で床に埋込みます。(図-2)



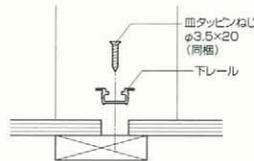
③図-3のように縦枠の段差部をベースにおて位置決めをし、上枠・縦枠を開口部に固定します。(図-4)



(図-4)

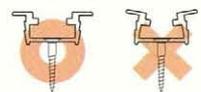


④下レールをねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で固定します。



【お願い】

下レールを取付けるねじは、締めすぎないようにしてください。下レールが変形し、扉開閉不具合の原因となります。



商品特長
商品一覧

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖
- 有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引

クローゼットドア 折れ戸 ピボットタイプ③

商品特長
商品一覧

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

規格表

室内ドア

室内引戸

クローゼット
ドア

戸襖

有償部品

特注
対応品

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

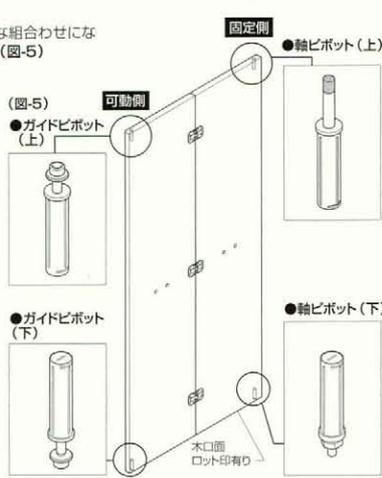
用語解説
索引

■本体の吊込み

■扉の取付け

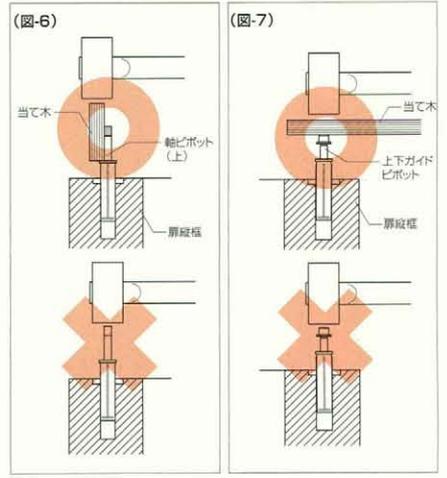
注1) ピボットは、必ず下図のような組合わせになるように取付けてください。(図-5)

注2) 必ず扉の上下を確認してください。木口にロット印がある方が下になります。



①軸ピボット(上)を扉の取付け穴に差込みます。
※取付ける際は、図のように当て木を行い、ハンマー等でたたき入れてください。軸をたたくとつぶれてしまいますので軸はたたかないでください。(図-6)

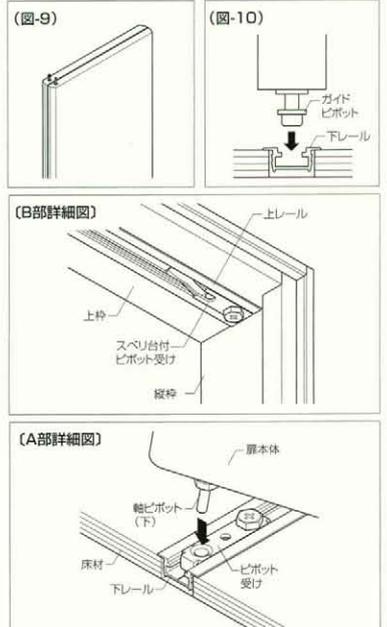
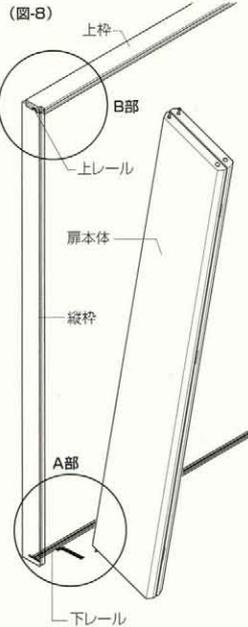
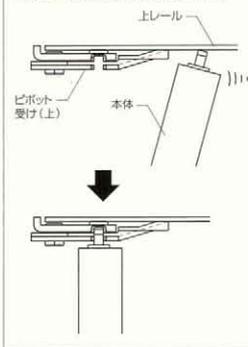
②ガイドピボット(上・下)及び軸ピボット(下)を、扉の取付け穴に差込みます。
※取付ける際は、図のように当て木を行い、ハンマー等でたたき入れてください。(図-7)



③扉を吊込みます。(図-8)

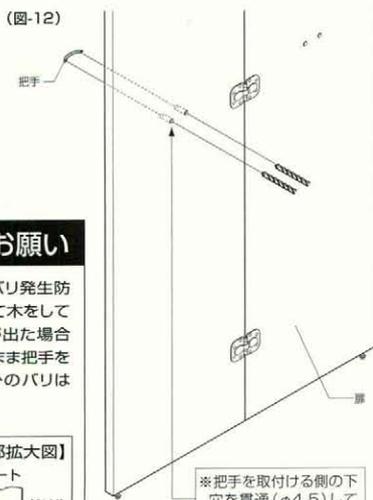
1. 図-9のように扉をたんだ状態でガイドピボット(下)を下レールの溝に差込みます。(図-10)
2. 下レールのピボット受けに軸ピボット(下)を差込みます。【A部詳細図】
3. 軸ピボット(上)とガイドピボット(上)が上レールの溝に入るように扉を立て、
4. 軸ピボット(上)がスベリ台付ピボット受けにはまる(「カチッ」と音がする)まで扉を立てます。(図-11)
5. もう片方の扉も同じ手順で吊込んでください。

■折れ戸本体取付け方法(図-11)



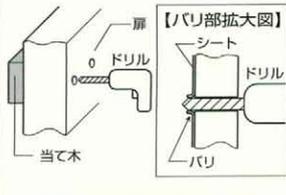
④把手を取付けます。(図-12)

※2枚の扉の裏面に把手取付け用の下穴が中間位置まであけてあります。
把手を取付ける側の扉の下穴を貫通(φ4.5)してください(図-12)



把手取付け時のお願い

●把手穴を貫通する際は、バリ発生防止のため扉表側に必ず当て木をしてください。それでもバリが出た場合は、無理にはがさず、そのまま把手を取付けてください。(多少のバリは把手の下に隠れます。)



■ケーシング材の取付け

【ケーシングタイプのみ】

※壁材・床材を仕上げしてからケーシング材を取付けてください。
①別組のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。(上用ケーシングは枠に合わせてあらかじめカットしてあります。)
②枠のケーシング溝へケーシングを差込みます。
③ケーシング溝とケーシング材裏面に木工用ボンド(現場手配)を塗布し、ケーシング材を固定します。
※仮止めする場合は、専用かくし釘をご使用ください。



【ご注意】
折れ戸ピボットタイプは、フリータイプに変更できません。

■建付け調整

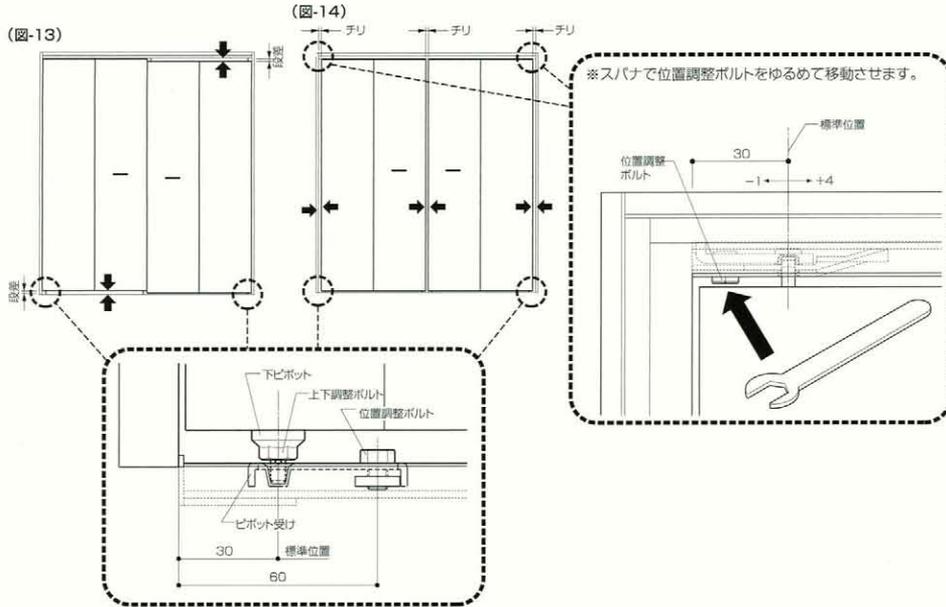
本体の段違いおよび左右のチリを調整します。

〈段違い(上・下)の調整〉

- 扉の取付け後、上下の目地が合っていない場合、下部ピボットの上下調整ボルトを回して調整します。
上下調整量 薄下枠:±2mm 埋込下レール:±3mm (図-13)

〈チリ(左・右)の調整〉

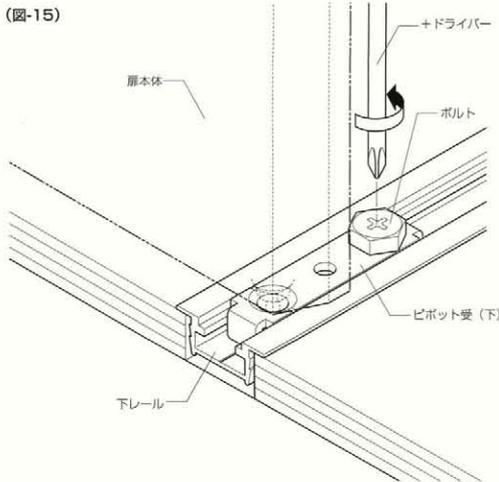
- 図-14のように左右のチリが大きい場合、上・下のピボット受座の位置調整ボルトをゆるめ、左右方向の調整をした後、ボルトを締付けます。(上ピボット受の左右調整量+4,-1mm)
注:調整完了後、ピボット受けを同梱のスプAnaで本固定してください。(図-14)



■扉の外し方

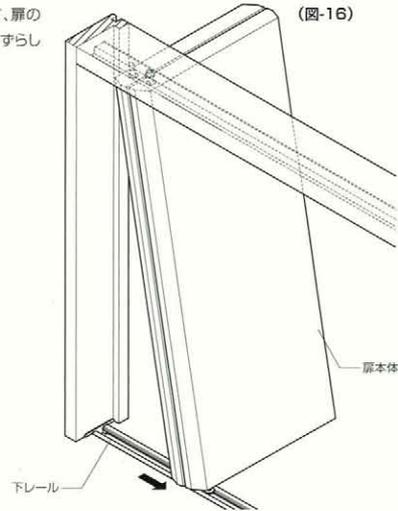
①ピボット受(下)のボルトをゆるめます。

(図-15)



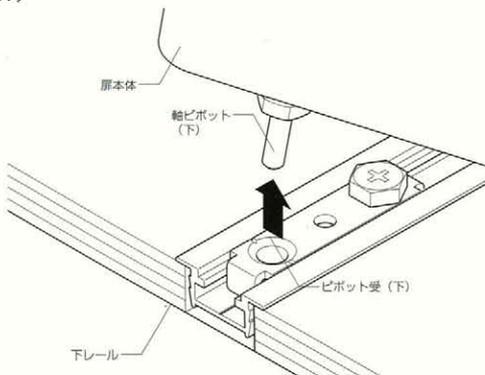
②扉を2枚そろえて、扉の下方をゆっくりとずらして傾けます。

(図-16)



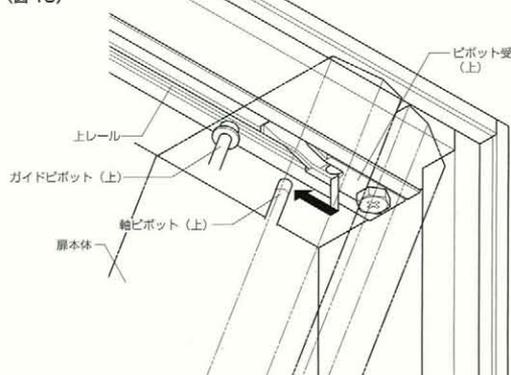
③扉本体を持ち上げ、軸ピボット(下)をピボット受(下)から外します。

(図-17)



④さらに扉を傾け、上側のピボットを上レール溝から外します。

(図-18)



**商品特長
商品一覧**

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖

規格表

- 室内ドア
- 室内引戸
- クローゼットドア
- 戸襖
- 有償部品

**特注
対応品**

ガラス寸法

基本寸法
納まり図

組立施工説明
お手入れ方法

発注書

用語解説
索引